

一歩

夏休み中の事件・事故

夏休みが明けて昨日から登校日になりました。お盆が過ぎる頃になると、夏休みも終わりに近づいてきた感覚を味わっていました。



テレビなどでは、夏休み中も毎日、さまざまな報道がありました。事件や事故の報道もありましたが、高級外車による「あおり運転」をとまなう暴行傷害事件が強く印象に残っています。

事件の加害者は、40歳代の男性でした。その車に同乗し、被害者を車の前に立ち、携帯で映していた50歳代の女性共謀者がいました。

この事件に関わった男女二人の加害者がワイドショーなどで報道されクローズアップされました。男性加害者が指名手配されると、この事件と関係のない女性が「共犯者である」と決めつけられ、ネットでの情報拡散とリツイートなどにより、間違った情報が拡散されました。いわゆるデマ情報の拡散です。デマ情報により関係のない人がネット上で犯人扱いされたのです。

デマ情報を流された女性は、デマ情報を拡散されたことでネット上のみならず、会社や携帯に無数の電話がくるようになりました。こういった被害に対し、拡散した人や誹謗中傷を書き込んだ人の情報公開をSNSの管理者に求め、名誉毀損罪で訴える動きをしています。



SNS上はデマや不確かな情報も掲載されています。



おそらくデマ情報を見て、他者にその情報を拡散や流した人は、ネットに載っている情報でその女性を「悪い人だ」と思い、悪い人が早く捕まってほしい思いから、自分も少しでも役に立てばと思っての拡散やリツイートの行動であろうと推測できます。しかし、SNSにはその数が一気に増える情報拡散力があります。デマ情報を見た人の中には、それを鵜呑み(そのまま信じ込むこと)にして、デマ情報で知った女性を「自首しろ」といった自首を強要したり、本人やその人の会社を攻撃したりしました。

名誉毀損罪で訴えると報道されると、多くの人が書き込みを消し知らぬぷりをしたり、連絡の可能な会社に謝罪の電話が鳴り響き、会社の仕事内容に支障をきたす状況になっていると聞きます。

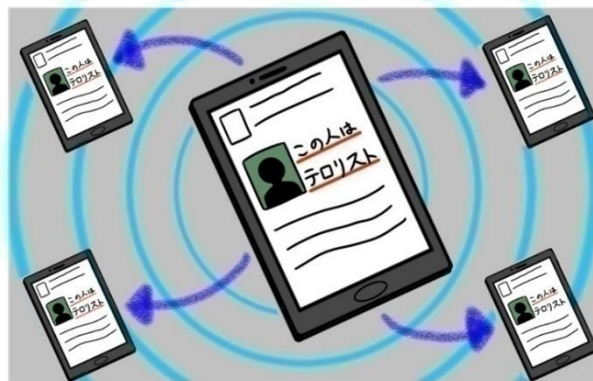
その女性が載せた写真が、実際の共犯者の女性と似た服装や容姿であったと聞きます。また主犯の男性が、デマ情報の女性のSNSをフォローしていたとも聞きます。だから、デマ情報になったことが認められるわけではありません。

正しい情報か否かを見極めるのは非常に難しいことです。

ある人が書いた本に、ネット情報の信用性について書かれていました。
著者は、日本を代表する広告代理店「電通」に20年以上勤務していた人です。

『SNSには、同じデータ元が写されたもの、一つのデータ元から作られた情報が多くある。SNS上に100個のデータ情報があっても、そのデータ元が一つである場合も現実に存在する。だから、ネット上に同じ考えや事実が多く書かれていても、それが真実であるとは限らない。』

『情報を確認するには、図書館が有効である。図書館司書の方に調べたいことを相談すると、資料の置いてある場所を教えてくれたり、資料の有効な検索方法を教えてくれたりする。こちらの情報のほうが、ネットの情報より正しく広い情報を得られる。』



このようなことが書かれていました。

ネット情報の不確定な理由を、多くの人のSNSの使い方から導き出している点に目から鱗が落ちる思いで聞きました。また、多くの人がSNSの情報を「多くの人が見ている」から信頼できるという錯覚している現状を怖いとも思いました。

そして、みなさんには

「何が正しいか」を

「どのようにして判断するか」を考え、決定できる人になってほしいと、あらためて強く思いました。

夏休み中に事故やケガなどがありましたら、学級担任など学校にお知らせください。



今週の特別学習

先週、実力テストがおこなわれました。今週の特別学習は、実力テストの振り返り学習とします。受験して、不確実なところを確実に解けるように復習してください。

